



生まれは京都。西本願寺の門の前、裏は仏壇屋
ばっかりでな。あそこで、親父が商売しとったから
な。親父はそのまま兵
隊行つて戦死してしも
たんやけどな。兄貴も
海軍の船はどこで沈ん
だかはわからんで行方
不明や。舞鶴から出よっ
たんや。戦争で2人とも
死んでしもた。

が大阪の天王寺に隠居部屋もってて、天王寺の方
がえやろ言うて、おじいさんの所へ移住さしても
らつて、上本町九丁目に居りましたんやけどな。そ
やから、学校は上本町小学校卒業してまんねん。

天王寺はおじいちゃんの隠居部屋で、商売を住吉
でしてたからな。住吉と今里に両方に店があったか
らな。今里にも新地がおましたやろ。で、今のところ
(御崎に住んでたので、学校は天王寺まで行つてま
したんや。まわりは、敷津浦より安立の方がええや
ろいうて、他のみんな安立の方行つとったからな。で
もこちらの学校行つてたらあかん、天王寺の方行
きつて。んで上町線乗つて。一時間くらいかかりまっ
せ。せやからあべの橋をヒューッと降りて、市電のと
こ入ったら、九銭で往復切符くれはんねやん。それ
もらうために、九時までに行かなあかんねん。だか
らズーッと走らんや。じゃあ帰りタダや。んで小遣い

「甦る光景」拾遺 その2

第17号に続き、住吉・住之江界隈の地域の記憶の
語りを、紹介させていただきます。西山氏におかれ
ましては、二〇二四年一月にお亡くなりになられま
した。編集者一同、ご冥福をお祈りいたします。

西山脩さん 元料理屋・川竹 昭和二年生まれ
二〇二二年十一月十五日ヒアリング

【小学校の思い出】

住吉郵便局がおましたやろ。あれの横ずーッと曲
がつつたところに風呂屋があつてな、その裏に、明陽
軒の洗い場やらみんなこしらえたあつた。で、その
角っこが明陽軒やつてん。んで向かい側の公園の
角っこの方が川竹やつてん。川竹の前にタバコ屋が
あつてん。ほいで、その間をすつと越えたら住吉公園
の中に入つていくんよ。江川橋や。橋の向こうが川
竹で、こっち側の角が明陽軒やつてん。指定地で。そ
の時は分はあちこち自分でできひんから、指定地にみ
なでビヤー押し込みよる。多分昭和の初めから。

【西側の新地への移転】

そのあと、国の命令やからしゃあないねんから
な。(二)住吉新地に移動せなしやないんやな。
そやから、明陽軒と川竹、源ちゃん、(屋号)ミヤケ、
それから、なんやあやの、名前が出てこんわ、まとまっ
てこっちに(住吉新地)みんな移転してきたんです
ね。もう煙らあらへん。百軒ほどお茶屋があつたん
やん。それ以外は普通の民家ようけ建つてたよ。お
茶屋やさかいな。にぎやかでしたよ。灯りがパッパッ
バツツて、晩になつたらな。

【徴用と軍隊】

栗本鉄工はみんな行きよつたな。私もしばらく靴
持つて行きましたかな。徴用逃れ、歩いて行つたが
な。遠いね。小学校出てからは働きにら行つてしま
へん。堺商業に行つとった。私は身内商売の仕出し
屋だつたから、家の手伝いしとった。電話待ちしとっ
たがな。せやから栗本はちよつと行つただけや。
結局昭和二十年になつて兵隊で満州に。何で行つ
たんかわからんけど奉天に居つてんやん。年も二十



南海本線 旧住吉公園駅から住吉島居前方面の汐掛道の住友燈籠群 (昭和15年撮影)

写真①
旧住吉公園踏切より東側、現在の説明板「住友燈籠の記」付近から見て
料理屋の伊賀治(写真中央)や住吉島居前にかけての様子。
汐掛道の両側に住友燈籠が立ち並ぶ。
住吉大社所蔵

写真②
住吉大社島居前の南西、
長峽町の汐掛道南側(旧菊一文字、初辰屋ほか)付近の様子。
同様に住友燈籠が立ち並ぶ。左手は住吉島居前。
住吉大社所蔵

写真③
住吉島居前の北西、旧電車待合所(通称「六角堂」)付近の様子。
汐掛道に沿って住友燈籠3基が確認できる。
住吉大社所蔵

住友燈籠の一覧表

No	和 暦	西暦	寄進者	取 次	場 所	配 置
1	元文二年六月	1737	住友友昌 (5代目住友吉左衛門)	山上金大夫	境内異参道	T5 北側
2	元文二年六月	1737	佐野繁雄・山中清房	山上金大夫	境内異参道	T6 北側
3	享保十二年九月	1727	住友友昌 (5代目住友吉左衛門)	山上金大夫	駅前通り	V1 北側
4	享保十二年九月	1727	住友武雄・友房	山上金大夫	駅前通り	V2 北側
5	享保十二年十二月	1727	予州別子銅山 住友氏	山上金大夫	駅前通り	V3 北側
6	享保十二年九月	1727	住友友昌 (5代目住友吉左衛門)	山上金大夫	駅前通り	V4 南側
7	元文二年六月	1737	植木勝秀・駒井正秀	山上金大夫	駅前通り	V5 北側
8	享保十二年九月	1727	住友周豊・入江良久	山上金大夫	駅前通り	V6 南側
9	享保十二年十二月	1727	予州別子銅山 住友氏	山上金大夫	駅前通り	V7 南側
10	元文二年六月	1737	住友友昌 (5代目住友吉左衛門)	山上金大夫	駅前通り	V8 南側
11	元文二年六月	1737	予州別子銅山 住友氏	山上金大夫	駅前通り	V9 北側
12	元文二年六月	1737	予州別子銅山 住友氏	山上金大夫	駅前通り	V10 南側
13	宝暦八年十二月	1758	住友友記 (6代目住友吉左衛門)	山上金大夫	駅前通り	V11 北側
14	宝暦八年十二月	1758	住友友記 (6代目住友吉左衛門)	山上金大夫	駅前通り	V12 南側
15	天明元年九月	1781	住友友記 (7代目住友吉左衛門)	山上金大夫	駅前通り	V13 北側
16	天明元年九月	1781	住友友記 (7代目住友吉左衛門)	山上金大夫	駅前通り	V14 南側
17	文化三年十一月	1806	予州銅山師 住友友端 (8代目住友吉左衛門)	山上金大夫	公園汐掛道	V15 北側
18	文化三年十一月	1806	予州銅山師 住友友端 (8代目住友吉左衛門)	山上金大夫	公園汐掛道	V16 南側
19	文化八年三月	1811	伊予銅山師 住友友間 (9代目住友吉左衛門)	山上金大夫	公園汐掛道	V17 北側
20	文化八年三月	1811	伊予銅山師 住友友間 (9代目住友吉左衛門)	山上金大夫	公園汐掛道	V18 南側
21	弘化三年十一月	1846	住友友視 (10代目住友吉左衛門)	山上金大夫	公園汐掛道	V19 北側
22	弘化三年十一月	1846	住友友視 (10代目住友吉左衛門)	山上金大夫	公園汐掛道	V20 南側
23	安政五年十一月	1858	住友友訓 (11代目住友吉左衛門)	山上金大夫	公園汐掛道	V21 北側
24	安政五年十一月	1858	住友友訓 (11代目住友吉左衛門)	山上金大夫	公園汐掛道	V22 南側
25	慶応二年五月	1866	住友友親 (12代目住友吉左衛門)	山上金大夫	公園汐掛道	V23 北側
26	慶応二年五月	1866	住友友親 (12代目住友吉左衛門)	山上金大夫	公園汐掛道	V24 南側
27	明治三十一年三月	1898	住友友純 (15代目住友吉左衛門)	—	公園汐掛道	V25 北側
28	明治三十一年三月	1898	住友友純 (15代目住友吉左衛門)	—	公園汐掛道	V26 南側
29	昭和四年八月	1929	住友友成 (16代目住友吉左衛門)	—	公園汐掛道	V27 北側
30	昭和四年八月	1929	住友友成 (16代目住友吉左衛門)	—	公園汐掛道	V28 南側
31	記載なし	—	住友倉庫勸仲間 橋伊兵衛	—	神池南西岸	O15 西側
32	記載なし	—	住友倉庫 井上市兵衛・高多八右衛門	—	神池中西岸	O19 西側
33	記載なし	—	住友西倉庫仲間 山崎利右衛門・小西久三郎 住友東倉庫仲間 別所喜太郎・岡本松蔵	—	神池中西岸	O22 西側



住吉公園 汐掛道沿いの住友燈籠



「予州銅山師 住友氏友間 三月吉日」

歳ならんでも兵隊に取りよつたからな。みんなで犬
に夜吠えられたりしたしな。とにかく行け行け、
帰つてくれ帰つてくれ言うてね、なんのこつかわか
らへんけどな。そろそろ満州から歩いて鉄砲担いで
朝鮮半島まっすぐ歩いて帰ってきましたね。タイ
シュン?の街、きれいな街やなこの街いうて言う
とつたんや。だから、足だけ丈夫や。

【一九四五年三月の大阪空襲】

こつちに戻つてきてたから、大阪の空襲おつてま
んがな。飛行機がバーッと空飛んで、あの阿倍野
の天王寺の方で落とした、駅前のことかな
りましたよ。朝早く起きてずーと天王寺のことま
で、おじいちゃんとかまで見に行つたがな。焼けて
へんかと思てな。んだら駅の方もみんな焼けておる。
電柱は焼けたるし、牛は燃えとるしな。かわいそ
う。自転車でダーッと走りました。天王寺のうちは
焼けてはしません。

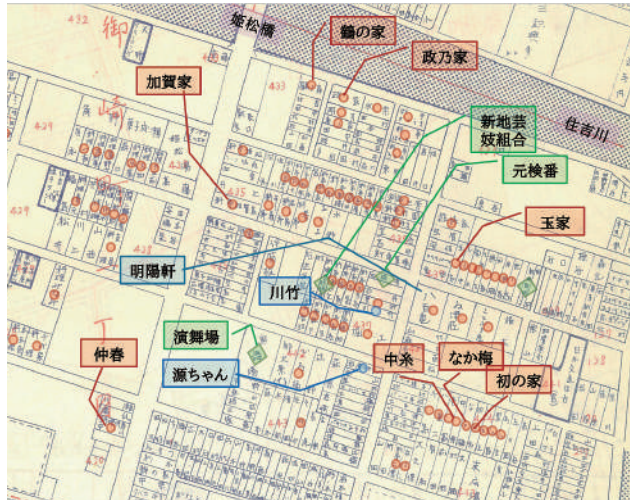
【住之江公園】

住之江公園こしらえるいうて、どうできた、そ
んなん初めから分からへんわ。はじめ競輪場やつて
ん。競輪で走つとおつてな。それがしばらく行かん
間に、ちゃんとした公園なつてん。そういう記憶
はあるけどな。戦争中は食糧小屋、馬の食糧
小屋、いろんなもんずーと積み上がった
おつたからな。もうあの、晩に歩いたら怖いな、
あんなこと。

【住吉新地】

ここの新地が百軒くらいあつてん大体お茶
屋が。芸妓さんとか抱えたあるとこ、三味線教
えたり、なんやしとるがな。それで、お茶屋から
その芸者指名したら芸者が来よんねやん。それ
でお客さんの相手。それはそれで向こうで教育
しはるさかいね。

こつちは仕出し屋やから、百軒くらいのお茶
屋で行つてないところもあるやろしな、まあ
行つてるとこもあるやろしな。中華料理屋か
て二軒も三軒もあるんやから、うち一軒だけと



昭和31年の住宅地図から茶屋や関連の店舗、
施設のおおよその分布